

# 筑波社会科学研究

## 第19号

### 【研究論文】

市民的資質教育としての Service Learning の意義

- 『Active Citizenship Today』の分析を通して— ……寺 本 誠 (1)
- 歴史科カリキュラムSCPの構成とその意義 ……平 子 晶 規 (15)
- 地理教育における効果的な野外観察に関する実証的研究 ……古 川 顕 (27)
- 師範学校における郷土教育の実践的展開
- 茨城県女子師範学校を事例として— ……外 池 智 (39)

### 【研究ノート】

社会科授業研究における質的研究法の意義

- 「公正さ」はどう認識されるか— ……川 崎 誠 司 (51)

### 【研究会報告】

- 第18回研究大会報告 ……(63)
- 6月例会 ……(68)
- 11月例会 ……(70)

### 【学会彙報】

- 1999年度学会活動報告 ……(73)
- 教育研究科1998年度修了生 修士論文一覧 ……(74)

筑波大学社会科教育学会

2000

## 筑波大学社会科教育学会会則

- 第 1 条 (名 称) 本会は筑波大学社会科教育学会と称する。
- 第 2 条 (目 的) 本会は社会科教育に関する研究を行い、あわせて会員相互の連絡をはかることを目的とする。
- 第 3 条 (活 動) 本会は前条の目的を達成するために、次に活動を行う。
1. 研究会の開催
  2. 機関誌の発行
  3. 資料の収集・交換
  4. その他必要と認められるもの
- 第 4 条 (会 員) 本会の会員は、筑波大学の出身者および本会の趣旨に賛同する者で、所定の会費を納入した者とする。
2. 本会に賛助会員をおくことができる。賛助会員は、会の趣旨に賛同し、賛助会費を収める者とする。
- 第 5 条 (本 部) 本会の本部は、筑波大学教育学系社会科教育学研究室におく。
- 第 6 条 (役 員) 本会は次の役員をおく。
- |     |     |      |    |     |     |
|-----|-----|------|----|-----|-----|
| 会 長 | 1名  | 副会長  | 1名 | 評議員 | 若干名 |
| 幹 事 | 若干名 | 会計監査 | 2名 |     |     |
2. 評議員および会計監査は総会において選出する。
  3. 会長および副会長は評議員会で選出する。
  4. 幹事は総会の承認を得て、会長が委嘱する。
  5. 役員の任期は2年とする。ただし、再選を妨げない。
- 第 7 条 (役員の仕事) 会長は本会を代表し、会務を統括する。
2. 副会長は会長を補佐し、会長に事故あるときはその職務を代行する。
  3. 評議員は評議員会を構成し、重要な会務を運営する。
  4. 幹事は幹事会を構成し、会長をたすけて会務を運営する。
  5. 会計監査は、本会の会計を監査する。
- 第 8 条 (顧 問) 本会には顧問をおくことができる。顧問は総会の承認を得て会長が委嘱する。
- 第 9 条 (会 議) 本会の会議は、総会、評議員会および幹事会とする。
2. 総会は毎年1回会長が招集し、会員の過半数の出席によって成立する。ただし、会員は委任状をもって議決権を他の会員に委任することができる。
  3. 必要ある場合、会長は臨時総会を招集することができる。
  4. 総会の議決決定は、出席会員の過半数をもって行う。
  5. 評議員会は、会長、副会長、評議員をもって構成し、会長の招集によって重要な会務を審議する。
  6. 幹事会は会長が招集する。
- 第 10 条 (会 計) 本会の経費は、会費、寄付金、その他をもってこれに充てる。
2. 本会の会費は総会で定める。
  3. 本会の会計年度は毎年4月1日に始まり、翌年3月31日までとする。
- 第 11 条 (会則の改正) 会則の改正は、総会の議を経なければならない。
- 付 則 この会則は昭和57年2月11日から施行する。

## 1999 (平成11年) 年度役員

会 長 斎藤 功 (筑波大学・地球科学系)

副 会 長 谷川彰英 (筑波大学・教育学系)

評 議 員 朝倉隆太郎 (元豊田短期大学), 飯島睦子 (東京・今川中), 石川透雄 (茨城・麻生高), 石川裕之 (長野・飯田高), 岩崎宏之 (筑波大学・歴史人類学系), 宇都木宏一 (茨城・岩井西高), 大森 正 (東洋大学), 梶 哲夫 (元早稲田大学), 金子 巧 (広島・舟入高), 上笹 恒 (筑波大学・哲学思想学系), 唐木清志 (静岡大学), 川崎誠司 (東京学芸大学), 木村勝彦 (茨城大学), 木村健一郎 (創価大学), 後藤忠司 (兵庫・須磨友ヶ丘高), 斎藤宏夫 (栃木・上三川高), 篠原昭雄 (つくば国際大学), 高山次嘉 (早稲田大学), 竹下裕隆 (愛知・豊田高), 田村和浩 (茨城・土浦第一高), 溜池善裕 (秋田大学), 二谷貞夫 (上越教育大学), 平岡可奈之 (神奈川・桐蔭学園), 藤沢 健 (岩手・岩手高), 古山良平 (東京学芸大学附属高), 別府淳夫 (つくば国際大学), 松岡尚敏 (宮城教育大学), 松川理治 (静岡県立高校), 松本 康 (香川大学), 三浦軍三 (東京学芸大学), 宮崎正勝 (北海道教育大学), 森茂岳雄 (東京学芸大学), 横山十四男 (元東京家政学院大学)

会計監査 高野尚好 (筑波大学・学校教育部), 伊藤純郎 (筑波大学・歴史人類学系)

幹 事 井田仁康 (筑波大学・教育学系), 三野輪敦 (茨城・茗溪学園中・高), 井門正美 (秋田大学), 内田邦彦 (東京・穎明館中・高), 江口勇治 (筑波大学・教育学系), 小玉慎也 (秋田・湯沢高), 小森正明 (宮内庁), 竹中大剛 (厚生省), 谷川彰英 (筑波大学・教育学系), 田林 明 (筑波大学・地球科学系), 田村真広 (北海道教育大学), 塚原直人 (東京・秋川高), 永野広務 (神奈川・横浜緑ヶ丘高), 菱山謙二 (筑波大学・社会科学系), 藤井千春 (茨城大学), 保坂秀夫 (埼玉純真女子短期大学), 真柴晶彦 (東京・烏山工高), 松本 敏 (宇都宮大学), 谷田部玲生 (国立教育研究所), 山本栄一 (神奈川・厚木商業高), 李 明熙 (韓国教育評価院), 桐谷正信 (埼玉大学)

## 『筑波社会科研究』編集委員

磯山恭子, 井田仁康, 江口勇治, 熊田禎介, 斎藤之誉, 佐藤 公,  
谷川彰英, チョウチヨウミエン, 外池 智, 松崎康弘, ララウイン, 若生 剛

## 〈編集規定〉

- (1) 本誌は筑波大学社会科教育学会の機関誌であり、年一回発行する。
- (2) 本誌は本学会会員の研究論文、研究ノート、書評、研究会報告、学会彙報、その他会員の研究活動に関する記事を掲載する。
- (3) 本誌に論文その他を掲載しようとする会員は、所定の執筆要領に従い「編集委員会」宛に送付する。
- (4) 原稿の掲載は編集委員会の審議を経て決定する。
- (5) 掲載予定の原稿について、編集委員会は執筆者との協議を通じ、内容に変更を求めることがある。
- (6) 本誌に掲載された論文その他は原則として返還しない。
- (7) 執筆者による校正は第一校までとし、再校以降は原則として編集委員会の責任において行う。

## 〈執筆要領〉

- (1) 論文原稿は未発表のものに限る。(ただし、口頭発表、プリントの場合はこの限りではない。)
- (2) 編集委員会が特に枚数を指定する以外の原稿は、図・表などを含めて、原則として研究論文が400字詰原稿用紙40枚以内、研究ノートが30枚以内、実践報告が20枚以内、書評が5枚以内とする。
- (3) 原稿は、400字詰横書きとする。ワープロ原稿の場合、43字×37行横書きとする。ワープロ原稿は、フロッピーディスクを付するものとする。
- (4) 原稿には、必ず英文タイトルを添付する。
- (5) 原稿には、氏名(フリガナ)、所属(職名その他を含む)、連絡先を付記し、筑波大学社会科教育学会「筑波社会科研究」編集委員会宛に送付するものとする。
- (6) 図版等で特定の費用を要する場合、執筆者に負担させることがある。
- (7) 原稿メ切は毎年9月30日、発行は翌年2月11日とする。

## 筑波社会科研究 第19号

2000年2月11日 印刷・発行  
編 集 「筑波社会科研究」編集委員会  
代表者 谷川彰英  
発 行 筑波大学社会科教育学会  
会 長 齋藤 功  
事務局 茨城県つくば市天王台1-1-1 (〒305-8572)  
筑波大学教育学系 社会科教育学研究室  
TEL 0298-53-6729 ~ 31  
振替 00350-4-7442  
印 刷 (有) 甲 文 堂  
東京都文京区大塚1-4-7 (〒112-0012)  
TEL 03-3947-0844/FAX 03-3947-0858

TSUKUBA ANNUALS  
FOR  
SOCIAL STUDIES EDUCATION  
No.19 2000  
CONTENTS

**Articles**

- The Significance of Service Learning as Citizenship Education  
—Through the Analysis of “Active Citizenship Today” — .....Makoto TERAMOTO ( 1 )
- The Structure of SCP and Its Significance .....Masaki HIRAKO (15)
- The Positivistic Study of Effective Fieldwork  
in Geography Education .....Ken FURUKAWA (27)
- The Community Education Practice of The Normal School :  
A Case Study of The Ibaraki Woman's Normal School .....Satoshi TONOIKE (39)

**Research Notes**

- A Qualitative Analysis of Social Studies Classroom Data:  
How Students Recognize the Concept of Equity .....Seiji KAWASAKI (51)

**Research Conferenses** ..... (63)

**Academic News**

- Academic Activities of the Association for the Social Studies Education  
in 1999 ..... (73)
- Titles of Master Theses Submitted by Graduate Students of the Social Studies Course,  
Master's Program of Education in 1998 ..... (74)

THE ASSOCIATION FOR SOCIAL STUDIES EDUCATION  
UNIVERSITY OF TSUKUBA